

調査2 : <2>群 : 国立大学附属高校 2 年生 (n=92 名) ・ <3>群 : 私立高校 2 年生 (n= 296)

※授業時間の差に着目するため、性別については扱わない。

①授業前のみの項目

問 1 『認知症について知っていますか？』

回答	<2>		<3>		p 値
知っている	48	(52.2)	169	(57.1)	0.565
聞いたことはある	44	(47.8)	123	(41.6)	
知らない	0	(0.0)	3	(1.0)	
不明	0	(0.0)	1	(0.3)	
合計	92	(100.0)	296	(100.0)	

左:人数 右()内:%

<2>群は認知症について「知らない」という回答はなく、<3>群は「知らない」という人は「不明」を合わせても 1%強で、“認知症”という言葉についてはほとんどの生徒が触れたことがあるようであった。

問 2 『若年性認知症について知っていますか？』

回答	<2>		<3>		p 値
知っている	23	(25.0)	56	(18.9)	0.130
聞いたことはある	48	(52.2)	137	(46.3)	
知らない	21	(22.8)	102	(34.5)	
不明	0	(0.0)	1	(0.3)	
合計	92	(100.0)	296	(100.0)	

左:人数 右()内:%

「若年性認知症」については、「知らない」と答えた生徒が<2>群で約 23%、<3>群で約 35%と、問 1 に比べるとかなり多くかった。しかし、中学生の場合、「知らない」と答えた生徒の割合が最も低かった中学 3 年生で約 55%であり、それと比較すると高校生が「知らない」と答えた割合は低かった。

問 3 『ご家族、ご親戚などあなたの身近に認知症のかたはいますか？』

回答	<2>		<3>		p 値
以前は身近にいたが、現在はいない	10	(10.9)	19	(6.4)	0.323
現在身近にいる	8	(8.7)	29	(9.8)	
身近にいない	74	(80.4)	242	(81.8)	
未記入	0	(0.0)	6	(2.0)	
合計	92	(100.0)	296	(100.0)	

左:人数 右()内:%

<2>群、<3>群ともに約 80%の生徒は身近に認知症の方がいたわけではなく、実際に接したことはないようであった。

問 4『問 3 で「1. 身近にいたが、現在はいない」「2. 現在身近にいる」と答えた方がお答えください?』

回答	<2>		<3>	
同居家族	4	(22.2)	8	(16.7)
親戚	12	(66.7)	37	(77.1)
その他	2	(11.1)	2	(4.1)
未記入	0	(0.0)	1	(2.1)
合計	18	0	48	(100.0)

左:人数 右()内:%

認知症の方が「1.身近にいたが、現在はいない」「2.現在身近にいる」という生徒の中で、同居していた経験のある人は、<2>群で約 22%、<3>群で約 17%であった。

集計対象となった全体でみると、認知症の方との同居経験がある生徒は、<2>群で 4.3%、<3>群で 2.7%とごくわずかであった。

問 5『あなたの認知症に対するイメージを書いてください（自由記述）』

以下は、自由記述の抜粋である。

●問 3 で「1. 身近にいたが、現在はいない」「2. 現在身近にいる」と答えた人の回答の抜粋

自由記述内容	
<2>群	何かあると暴れだす。
	病気で薬がない。介護しなければならない。
	物忘れの延長線上。
	切なくなる。ちゃんとしゃべれない。
	物忘れが多い。記憶力が低い。わがままになりやすい。
	言葉が通じない。人が誰であるか認識できない。何度も同じことを言う。訳のわからない発言。
	だんだんと子どもにかえっていつてしまう。ものの考え方や言動が幼くなっていく。
	ただの物忘れだけでなく、そこからウツまで発展してしまう人も少なくないほど本人は辛いと聞いたことがある。
	昔の事はよく覚えているが、現在の事はよく忘れてしまう。同じ事を繰り返す言う。無気力になったりすることが急にある。
	時間の感覚がおかしくなる。生活の上で基本的なこと(排泄とか)が困難になる。自分の孫がわからない。

<3> 群	物忘れがはげしい。
	頭がボケて意味不明なことを言うイメージ。
	すぐ騒ぐ、人のせいにする、自分のやった事を覚えられず、すぐに忘れる。道がわからない、行動が子どもみたい。
	私の経験から言うと、祖母だったら母のことを「お母さん」と言ったり、私のことを「誰だ」と言うような、何もかも忘れてしまっている状態だと思います。
	何度も同じ事を言ったり、聞いたりしてくる。
	手のかかるもの。面倒くさい。
	今までの生きてきた中で出会った大切な人を忘れてしまう寂しいもの。
	別にその人が悪いわけではないが、なんとなく避けてしまう気がする。
	かわいそうだけど頑張っている。
	家族のケアが必要だと思う。
<2> 群	人によって違うかも知れど、とても苦しむ。大事な人を忘れたり、ふとした時に「ここはどこだ」となったり。覚えていたりいなかったりだったり。支えるのも辛いし、支えられる方も辛い。

●問3で「3. 身近にいない」と答えた人の回答の抜粋

自由記述内容	
<2> 群	生きてて残念なことになりそう。自分は絶対なりたくない。
	言語機能障害や喪失のような症状。暴れる。
	すぐに物を忘れてしまい、記憶をとどめていられない怖い病気。
	何かをすぐ忘れてしまうイメージ。自分にはあまり関係ないような。でもドラマでしか聞いたことがないので、よくわかりません。
	昼食を食べたのに「昼食はまだ？」と言う。名前を間違える。
	お年寄りの方のイメージが強い。CM で呼びかけたりと、力を入れている。
	誰がなってもおかしくない。特効薬がない。家族がなったら辛い。
	本人よりも周りの支える側の人が大変そう。今までとは全然人格が変わってしまいそう。
	自分の家族のことなど、大切な事も忘れてしまう。本人も家族も苦しい。
	介護する人が大変。どんどん子どものころの記憶に戻っていつてしまう。怖い病気。その人が全く違う人になってしまうような感じ。
<2> 群	物忘れが酷い。自分で自分のこと(トイレや食事など)ができなくなる。自分をコントロールできないから、感情の上下が激しい。
	そもそも認知症なんて病気みたいに扱っていることがおかしいと思う。長年使ったパソコンに誤作動が起こりやすくなったりと同じで、特に人間はここ 2000 年ぐらいで急激に生活も寿命も技術も進化しているのだから、脳に負担が多くかかるのも、ガタが来てからが長いのも当たり前と思う。
	とても悲しいイメージ。絶対になりたくないもの。また家族になってほしくないもの。いろいろ忘れてしまう。よくテレビとかでやっている。認知症の話を聞くと、身を切られるくらいに悲しい気持ちになる。

<3> 群	頻繁に物事を忘れてしまう。趣味に興味がなくなる。
	どれだけ介護してもいつかは本人に忘れられそうで怖い。
	すぐに忘れる、そして思い出せない。あることないことを言いふらす。被害妄想が激しい。
	家族の名前を忘れて「あなた誰？」と言うようになってしまう。そして家に居るのに家に帰りた いと言ってしまう病気。
	一人にしておく危険から、ずっとついていてあげなくちゃいけないというイメージ。
	接するのが少し大変になるだけで、悪者とは思わない。
	介護する人も大変だけど、認知症になってしまった人はもっとかわいそう。
	自分が体験した事や周りの人を忘れてしまうのは悲しいこと。だから認知症は悲しい病気と いうイメージです。
	言い方が悪いけど、頭がおかしくなると感じる。
	接しにくい。できればなりたくない。
	正直よくわからない。認知症は私達とは全然違う。感情というものがない。
	軽い物忘れなどはまだよいが、悪化すると人間ではないかのような行動をしたりして怖い。そ してその人自身、記憶が混乱して、とてもかわいそう。マヒなどよりも認知症は世話がたいへ ん。イライラしてしまう。いきなり叩かれたりするので、近くにいる時はボーっとしていられな い。
	介護が大変そう。最近によく認知症の映画やニュースでやるドキュメンタリー、ドラマでもやっ ているので知っている人が増えたけど、それまでは周りの人に理解などしてもらうのが大変 だったのではないかなと思う。
	とても困る。大変。認知症の人を相手に生活していたら、泣きたくなると思う。「この人、誰？」 とか、今までできていたことが、わからなくなる。

身近に認知症の人がいた生徒とそうでない生徒ともに、「物忘れ」という記憶の障害のイ
メージが強いのは中学生と同様であった。

身近に認知症の人がいた生徒のほうには、「切ない」「寂しい」といった記述があり、実
際に感じが感情が述べられているようであった。

また、身近に認知症の人がいない生徒も、単に **negative** なイメージだけでなく、「本人も
家族も苦しい」など、本人の辛さや周りの辛さに目が向いているものもあった。

問 6(授業前)：問 4(授業後)

『認知症の基本的なことについて、高校生ぐらいの年齢の人たちも知っている必要があ
ると思いますか？』

「1. とてもそう思う」「2. そう思う」「3. そう思わない」「4. 全く思わない」を 4 から 1
の数値に変換し、認知症の授業に対する必要性の評価について対応のある t 検定を両群それ
ぞれに行った。

その結果、<2>群 ($t(90)=5.357$, $p<.001$)、<3>群 ($t(287)=8.949$, $p<.001$) ともに有意
な結果であった。授業を実施することで、認知症の授業に対する必要性の評価が高まるこ
とが明らかとなった。

	<2>群 (n=91)	p 値	<3>群 (n=288)	p 値
授業前	3.20 (0.54)	<0.001	3.14 (0.59)	<0.001
授業後	3.44 (0.52)		3.43 (0.60)	

上段:平均値、下段()内:標準偏差

問 7①(授業前) : 問 6①(授業後) 『認知症は物忘れと同じである』

	<2>群		<3>群	
	授業前	授業後	授業前	授業後
はい	4 (4.3)	1 (1.1)	76 (25.7)	23 (7.8)
いいえ	88 (95.7)	91 (98.9)	218 (73.6)	268 (90.5)
未記入	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.7)	5 (1.7)
合計	92 (100.0)	92 (100.0)	296 (100.0)	296 (100.0)

上段:人数、下段()内:%

<2>・<3>群ともに授業後のほうが、認知症が単なるもの忘れでないことへの理解が進んでいる。また、<2>群は授業前でも 95%の生徒が認知症が単なる物忘れでないにとらえていた。

問 7②(授業前) : 問 6②(授業後) 『認知症になった本人は何もわからないから楽である』

	<2>群		<3>群	
	授業前	授業後	授業前	授業後
はい	10 (10.9)	1 (1.1)	33 (11.2)	19 (6.4)
いいえ	81 (88.0)	91 (98.9)	262 (88.5)	271 (91.6)
未記入	1 (1.1)	0 (0.0)	1 (0.3)	6 (2.0)
合計	92 (100.0)	92 (100.0)	296 (100.0)	296 (100.0)

上段:人数、下段()内:%

<2>・<3>群ともに授業後のほうが認知症の人自身も辛いということへの理解が進んでいた。

問 7③(授業前)：問 6③(授業後)

『認知症の方には子どもと接するように接したほうがよい』

	<2>群		<3>群	
	授業前	授業後	授業前	授業後
はい	30 (32.6)	22 (23.9)	123 (41.6)	89 (30.1)
いいえ	61 (66.3)	70 (76.1)	170 (57.4)	201 (67.9)
未記入	1 (1.1)	0 (0.0)	3 (1.0)	6 (2.0)
合計	92 (100.0)	92 (100.0)	296 (100.0)	296 (100.0)

上段：人数、 下段()内：％

<2>群では約 24%、<3>群では約 30%の生徒が、授業後に「認知症の方には子どもと接するように接したほうがよい」と答えている。その割合は中学生より低いものの、自由記述の「認知症のイメージ」でも「子どもにかえる」などの記載があり、そのことが「子どもと接するように接したほうがよい」という考えと結びついている可能性がある。この点は中学生と同様であった。優しい気持ちを持ちながら尊厳を持った大人として接することが大切であることをうまく伝える必要がある。

問 7④(授業前)：問 6④(授業後)『認知症になるといろいろな気持ちも感じなくなる』

	<2>群		<3>群	
	授業前	授業後	授業前	授業後
はい	15 (16.3)	5 (5.4)	67 (22.6)	39 (13.2)
いいえ	75 (81.5)	87 (94.6)	227 (76.7)	252 (85.1)
未記入	2 (2.2)	0 (0.0)	2 (0.7)	5 (1.7)
合計	92 (100.0)	92 (100.0)	296 (100.0)	296 (100.0)

上段：人数、 下段()内：％

<2>・<3>群ともに授業後のほうが、認知症の方の感情が生きていることへの理解が進んでおり、<2>群のほうがその割合が約 10%高かった。

問 7⑤(授業前) : 問 6⑤(授業後)『自分の家族が認知症になったら周りに知られたくない』

	<2>群		<3>群	
	授業前	授業後	授業前	授業後
はい	34 (37.0)	22 (23.9)	111 (37.5)	64 (21.6)
いいえ	57 (61.9)	69 (75.0)	179 (60.5)	223 (75.3)
未記入	1 (1.1)	1 (1.1)	6 (2.0)	9 (3.1)
合計	92 (100.0)	92 (100.0)	296 (100.0)	296 (100.0)

上段:人数、下段()内:%

<2>・<3>群ともに授業後のほうが、家族が認知症なったことを隠しておきたいといった抵抗感が和らいでおり、その割合も中学生よりも低かった。

③授業後のみの項目

問 1『 認知症の授業はためになりましたか? 』

「1. ためになった」「2. まあまあためになった」「3. あまりためにならなかった」「4. ためにならなかった」を 4 から 1 の数値に変換し、<2><3>群間の対応のない t 検定を行った。

その結果は有意ではなく ($t(380)=0.150$, n. s.), 授業時間の長さは異なるが、授業に対する評価に差はなかった。また、両群とも平均値は 3.4 以上で、授業に対する評価は高かった。

	<2>群 (n=92)	<3>群 (n=290)	p値
授業評価	3.43 (0.52)	3.42 (0.61)	0.881

上段:平均値、下段()内:標準偏差

問2『問1で「ためになった」「まあまあためになった」と感じた理由を書いて下さい』
(自由記述)

●授業前の問3で「1. 身近にいたが、現在はいない」「2. 現在身近にいる」と答えた人の
回答の抜粋

自由記述内容	
<2> 群	自分は知っている方だと思っていたが、誤解していたところがあったから。
	介護する時に困るだろうなと思っていて、その解決策を提示していただいたから。
	認知症に関し、知らなかった事実が多々あり、誤解していた部分や知識が正しい事がわかって、患者の心情なども少しわかった(患者サイドのエクスプラネーションがあったから)ため。
	自分とは関係ないと思っていた認知症について、いろいろ知ることができました。認知症についての正しい認識を得ることができた。
	知っていた事についてはもっと詳しく知れたし、知らなかった事も知ることができました。「“盗られた”と思う」というのが、特に当てはまって、これからに生かそうと思いました。
	自分の持っていない知識を得られたから。パンフレット配布されればよいと思った。このように集って話す形態を取るなら、パンフレット外の話(例えば体験談)も交えてほしかった。
<3> 群	自分がまだまだ知らない事を学ぶことができました。
	身近にいたので、認知症はこんな病気なんだとわかった。
	認知症の人への接し方などよくわかった。ちゃんと一人の大人として接する。
	認知症はいろいろな環境を作ればそのケアなどもできることがわかった。
	私のおばあちゃんの死と対面する前は認知症だったので、介護者であるお母さんはよく頑張ってきたし、今思うと泣けてきました。
	認知症になった人の介護は大変なだけだと思っていたけど、自分が昔してもらったことをするという気持ちで介護するなら、気持ちが楽になると思いました。
	認知症や若年認知症について、いろいろとわかった事がいっぱいありました。感情は残っているものだから、冷たくせず優しくして、なるべくできる事は見守りたいと思った。
	親や自分ももしかしたら認知症になるかもしれないし、その時には認知症を理解して心から支えたいと思いました。

認知症の人が身近にいても、認知症に関して詳しいことを知る機会はあまりないようで、授業を受けることで新しい発見があったり、誤った理解をしていたことへの気づきがあるようだった。

●授業前の問3で「3. 身近にいない」と答えた人の回答の抜粋

自由記述内容	
<2> 群	認知症の人への接し方がわかった。
	今までの認知症についてのイメージが間違っていると気づけたから。
	認知症という言葉に対する先入観や偏見をなくせた。
	将来、社会問題となるであろう事柄について、詳しく知ることができたので。
	認知症は病気であり、物忘れではないということを学び、意識が変わった。
	今まで何となくしか知らなかった認知症について知れたから。現在の認知症の患者の状況がわかったから。
	介護の人の大変さとか、どうすべきかとか、ためになった。
	身近には認知症はいないけど、おばあちゃんと一緒に暮らしているから、もし今後そうなった時に役立てたいと思ったから。
	認知症の正しい知識を知ること、認知症だけでなく、その周りの家族の大変さがわかった。
	今まで認知症になったら感情がなくなり、酷い事もズバズバ言ってしまうイメージが強かったので、感情がちゃんとあるんだということがわかってよかったです。
<3> 群	認知症の人はすべてのことを忘れてしまうと思っていたが、心の中ではちゃんと昔の記憶もあるということを知って、接し方が変えられるから。
	認知症の人も自分が悪くなっているのに気がついて、ストレスもたまっているのがわかったから。
	どのような症状が出てくるのかわかったり、病気になってしまった方の人も辛いということがわかったから。
	認知症はなった本人もつらいし、周りにいる家族もつらい。
	認知症の方も感情が最後まで感じていることがわかりました。
	認知症のことを間違えていたので、ちゃんと理解できたからためになったと思う。
	認知症は脳の病気だということ。介護の人も第二の患者とか初めて知った。
	私は認知症のことに興味があまりありませんでした。授業を受けて、もっと認知症について知りたくなりました。
	今までは物忘れが悪化したようなものだと思っていたり、結構勘違いしていたり、関心がなかったし、80歳以上の4、5人に1人の老人の方に認知症の患者さんがいると知って、この先、他人事ではなくなってきたから。
	認知症という病気について深く関心を持つこともできたし、もし自分の祖父や祖母が認知症になった時、何をしてあげればいいのかということもわかって、本当にとってもためになったと思いました。
<3> 群	知らないことばかりだったので、よかった。認知症本人だけでなく、介護している家族も大変なんだということがよく知れた。
	祖母、祖父と同居しているので、もし認知症になった時、親だけに介護を任せるのではなく、自分にもできることを知れたので。
	自分が生活している中で、例えば認知症らしき人が困ってしたら助けたいと思った。助け方を学べた。
	認知症はすべてを忘れるものだと思っていたからです。まだ認知症の方にも人間らしさが残っているのを知り、うれしかったです。
	認知症になっても人生の先輩だから子ども扱いをしてはいけないんだと思いました。

認知症のことが前よりもわかったというだけでなく、それまで認知症に対して抱いていた誤解がなくなったということも含め、様々なことを感じていた。

特に認知症の本人が自分の病気をどのように感じ、日々どのような状態の中で過ごしているかについては、初めて聞く生徒が多かったようである。現在、祖父母と同居している生徒は、より身近な問題として自分に引き寄せて感じていた。

自由記述の内容からは、正しいことを知ることに有用性がうかがえる結果となっていた。

(※問3の「ためにならなかった」と感じた理由については、〈2〉・〈3〉群ともに「もう知っていた事が多かった」「そこまで細かくなかったから。実際のケースをもっと知りたかった」「すでにテレビ等で知っている事ばかりだったので」「なんか実感がわかなかった」といった数個の回答しか記入されていなかった。)

問5『認知症に関して、皆さんが知っていたほうが良いと思うことや、もっと知りたいと思うことなどについて書いてください』（自由記述）

●「知っておいたほうが良いと思うこと」の抜粋

自由記述内容	
〈2〉 群	認知症は病気であるという事は、誰も知っておくべきだと思う。
	認知症になった本人の具体的な気持ちやその変化。
	認知症の症状や治療法、予防方法を知っておいた方がよいと思う。
	認知症の方への接し方、介護の大変さ、何かサポートできることを知った方がよいし、知りたいと思います。
	いろいろな人がちゃんと知っておくということが、差別とかの防止に役立つのではないだろうか。
	認知症の方をもっと身近に感じられるようにした方がよい。
	物忘れとの違い。なぜその発言をするのかという理由(不安からとか等)。
	介護する人へのケアが大事。
	介護する方も大変だけど、本人だって大変だということ。
	本人はただ能天気にならないうのではなく、自分を苛立たしく感じている。
	介護する人も辛いし、本人も辛いというのはかなり大変な病気なんだと思った。感情は前と変わらないというのはどれだけ辛いのか、みんな知るべきであると思う。
	若い人でもなるということ。何もできない人ばかりではなく、ちゃんとした一人の人であること。
	若くても認知症になることがあるというのはあまり知られていないので、もっと知ってもらえるようになったらいいと思う。
	認知症の人を支えるには、家族以外の社会全体の助けも必要であるということを、私達も知っておく必要があると思った。
	周りのサポートについて知っておくべきだと思います。また認知症に対する理解も必要だと感じました。

<3> 群	認知症は老化によるボケではなく、きちんとした病気だということ。
	思い出すまでに時間がかかるので、待っててあげる等。
	認知症の人を責めたりしてはいけないといったことは、知っておいた方がよいと思う。
	接し方や態度を知らない、いざ自分の周りの人が認知症になった時に、とても困ると思うから、そういうことをもっと勉強できたらと思った。
	単なる物忘れではないこと。認知症の人にとっての見える世界はとても不安だらけということ。介護する方もストレスがたまって、とても大変だということ。
	認知症は別にボケているわけではなく、感情は残っているという点。ちゃんと人として扱ってあげてほしい。
	認知症の人を毛嫌いしたり、家族や周りの人が偏見の目で見ないで、その人のことをちゃんと理解して接してあげるのが大切だと、今日の授業を通して思いました。
	認知症は辛い。なった人もだが、介護する人も辛い。でもそれを受け入れないといけない。認知症という言葉の重みを知った方がいいと思う。
	周りの人が温かく見守って支えて協力していつてあげることが大事なんだということを知った方がいいと思いました。
	判断力、理解力、思考力が低下するけど、感情は最後まで残っているということを知っていた方がいいと思う。
<2> 群	「認知症」は「何もできなくなる」とか「何もわからなくなる」ということではないということを知っていた方がいい。
	家族だけでの介護は絶対に続けていけないし、介護者にもストレスがたまってしまうので、サービスや施設などに頼ることが大切だと思った。

認知症は病気であることや、認知症の人への接し方を知っている必要があること、認知症の人やその家族も辛いことなど、授業を行う際の実施者側の伝えたいことを受け取ってくれているようであった。介護者へのサポートについては、簡単に触れたのみだが、サポートの必要性への言及も多く、社会全体で支えていく重要性にまで言及している記述もあった。

●「もっと知りたいと思うこと」の抜粋

自由記述内容	
<2> 群	認知症の接し方をもう少し詳しく知りたいです。
	メカニズム(脳の観点での)。なぜ治療薬が緩和しかできないのか、なぜ感情は残るのに認知機能のみ衰退するのか、脳の部位に神経細胞の格差はあるのか。だとしたら、改善の具体的違いは。
	認知症になった本人は生きていて楽しいのかどうか。
	自分が認知症にならないための予防法を詳しく知りたい。
	認知症の方々との触れ合い(会合的な)があれば、もっと感じ取れるかも。
	認知症の人の生活の具体例を知り、それに対する介護をしている人のことも同時に知りたい。
	認知症を治す薬は、結局開発可能なのかどうか。
	認知症の人と楽しく暮らしていく方法。認知症の人は家族やサポートしてくれている人をどのように思っているのか。
	若年性アルツハイマーは何歳からいるのか、学生にもいるのか。これから特効薬はできる見込みがあるのか。遺伝はあるのか。

<3> 群	認知症はどうしてこうなるというのはパンフレットでわかったが、脳の仕組みをもっと知りたいと思った。
	認知症が治る薬はいつ開発されるのか知りたい。認知症で回復させるには何をしたら一番いいか。
	認知症を悪化させないためには、どのようなことをすればいいのか。
	私自身、何かやれることがあったらいいなと思います。
	認知症になっている人の気持ちをもっと知りたい。実際に接してみたい。
	認知症の人に声をかけたり、話をする時にどうしたらいいのかを知りたいと思った。
	認知症は病気なので、悪いことばかりで暗いイメージばかり。でもこの病気についても何かいい話があるのでは、もっと介護に関してお互いに納得がいくような介護について。
	夜、勝手に外に出てしまうというのは治るのか。私の近所に認知症のおじいさんと息子が二人で住んでいたのですが、ボケがひどく、息子がおじいさんを刺し殺すという事件がありました。そこまで追い込まれたら介護者は誰に相談すればいいのか。
	やっぱり一番は治療法です。科学の技術もどんどん進化していくので、早く見つければいいなと思います。そして見つかったらそのことについて知りたいです。

認知症に関して少し知ること、具体的な接し方、予防法、薬のことなど、更に詳しく知りたいと感じているようであった。脳のメカニズムに関心を持った生徒もいた。また、「認知症になった本人は生きていて楽しいのかどうか」「認知症の人は家族やサポートしてくれている人をどのように思っているのか」という、認知症の本人の“生の声”を聞きたいという記述もあった。

これらの意見は授業時間を長く実施する場合や、複数回数行う場合の参考になると思われる。

D. 考 察

「認知症」という言葉に関しては「知らない」と答えた生徒が中学生全体では約 6%、高校生では 1%以下であり、ほとんどの生徒が知っていた。一方、「若年性認知症」に関しては、「知らない」と答えた割合が多かった。高校生でその割合がより多かった<2>群で約 35%、中学生全体では「知らない」割合が約 65%と増加する。認知症は高齢者の病気というイメージが強いが、今回の対象者である中・高校生の親も罹患する可能性はある。認知症について知ってもらう際に、若年性認知症についても触れることは若い世代への啓発という意味でも重要である。

生活状況の変化により、高齢者と同居する世帯は減少している。今回の調査でも、認知症の人と同居した経験のある生徒は、中・高校生全体で約 2~4%とごくわずかであった。そのため、生徒達が抱いている認知症のイメージは、実体験に基づくものというより、マスメディアや書籍などによるものと考えられる。

授業前に生徒が抱いている認知症イメージは、認知症の高齢者が身近にいた生徒のほう

が、感情の変化や認知症の症状などの具体的なことを記述しており、実体験に基づいたものであることがうかがえた。認知症の人が身近にいたことがない生徒では「アホになって暴れて赤ちゃんになって死ぬ」「目がいかれている」といった、イメージが先行した、やや誤解を含んだ記述も散見された。高校生になると身近に認知症の人がいた生徒とそうでない生徒ともに、本人の辛さや周りの辛さにも目が向いている部分がうかがえたが、中学生に関しては、そのような記述はごくわずかしかなかった。この違いは、他者の視点にたてるかどうかという発達段階が関係していると思われる。

「認知症の基本的なことについて中学生（or 高校生）ぐらゐの年齢の人も知っている必要がある」に関する評価では、中・高校生ともに授業後により評価が高まっており、認知症の授業を行う効果があることが明らかになった。この結果からも、認知症のことを理解しようとしている彼らの姿勢を育てることは重要なことである。

「認知症の授業はためになったか」に関する評価では、中学生の平均値はどの学年も 4 件法で 3.2 前後で、評価そのものは高く、学年によって差はないことから、認知症の授業はどの学年に対しても評価されていた。高校生は両群の平均値はともに 3.4 前後で、評価そのものも高く、授業時間の長さ（30 分と 60 分）の評価に対する影響はなかった。認知症の授業を学校で行う際は、学校側の時間的制約もあるが、短時間でも実施することに意味があると思われる。

認知症に関する正しい理解は、授業後のほうがその割合が増加していた。「自分の家族が認知症になったら周りに知られたくない」という抵抗感については、中学生と高校生では異なる動きが見られた。高校生は授業前より授業後で「はい」と答えた生徒が減少した。一方中学生では、授業前に「わからない」と答えた生徒の多くは、授業後では「いいえ」と答えているものの、「はい」と答えた割合としては、どの学年も少しずつ増えていた。この点は、授業前の認知症に対するイメージの自由記述のところでも述べたが、中学生は高校生よりもまだ幼く、認知症本人の気持ちや介護をする家族の気持ちに対し、思いを十分に至らせることができない可能性がある。そのため、認知症が治らないこと、症状として様々な状態があることを知ることで、大変な病気であるという意識が強くなり、授業前より「知られたくない」と感じる生徒がいたと考えられる。中学生に対して実施する際は、この点を考慮し、周りの協力があれば、認知症を抱えながらも生活していくことは可能であること、介護をすることで介護者が生きがいを感じることもあることなども、これまで以上にわかりやすく伝える必要がある。

「認知症に関して知っていたほうがいいと思うこと（自由記述）」で生徒が挙げた「認知症は病気であること」「認知症の人やその家族も辛いこと」「認知症の方への接し方」「家族へのケアの必要性」といったことは、今後このような取り組みをする際に、より丁寧に伝える必要がある。また、認知症に関して少し知ること、更に詳しく知りたいと感じるようで、「薬のこと」「暗いイメージだけでなく、お互いがもっと納得いくような介護について」などが「もっと知りたいと思うこと（自由記述）」としてあがっている。更には「私自身、何かやれることがあったらいいなと思います」といった問題意識を感じた生徒もあり、

「知る」という行為が、更なる興味・関心や問題意識の芽生えにつながっている。

E. まとめ

日本は既に超高齢化社会で、認知症の患者数は今後ますます増加する。若い世代は、多くの認知症患者と向き合わなければならない世代でもある。

アンケート結果では、授業後のほうが認知症への理解が進み、問題意識も芽生えていた。このような授業を行う取り組みは、若い世代の認知症への意識の確認もでき、意識の変化にもつながることが示唆された。

授業前

にんちしょう
認知症に関してみなさんにお尋ねします。
以下、質問にあてはまるところに○をつけたり、（ ）の中に記入してください

問1 にんちしょう
認知症についてしていますか？

1. 知っている 2. 聞いたことはある 3. 知らない

問2 じゃくねんせい にんち しょう
若年性認知症についてしていますか？

1. 知っている 2. 聞いたことはある 3. 知らない

問3 しんせき にんちしょう たず
ご家族、ご親戚など、あなたの身近にいらっしゃる認知症の方についてお尋ねします

1. 以前は身近にいたが、
現在ははいない 2. 現在身近にいる 3. 身近にいない 4. わからない

問4 問3で「1.以前は身近にいたが、現在ははいない」「2.現在身近にいる」

と答えた方がお答えください

その身近な方とは、以下のどれにあてはまりますか？

1. いっしょに住んでいる家族 2. 親戚
3. その他（ ）

「いっしょに住んでいる家族」
は血のつながりがあって一緒に
住んでいる人、「親戚」は血の
つながりがあって一緒に住んで
いない人と考えて下さい！

問5 にんち しょう
あなたの認知症に対するイメージを書いてください

問6 にんち しょう きほんてき ねんれい
認知症の基本的なことについて、中学生ぐらいの年齢の人たちも知っている
必要があると思いますか？

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. そう思わない 4. 全く思わない

問7 以下の質問について、「はい」「いいえ」「わからない」のどれかに○をつけてください

① にんちしょう ものわす 認知症と物忘れは同じである	はい	いいえ	わからない
② にんちしょう 認知症になった本人は何もわからないから楽である	はい	いいえ	わからない
③ にんちしょう 認知症の方には、子どもと接するように接したほうがよい	はい	いいえ	わからない
④ にんちしょうに 認知症になると、いろいろな気持ちも感じなくなる	はい	いいえ	わからない
⑤ 自分の家族が認知症になったら周りに知られたくない	はい	いいえ	わからない

授業前			
 認知症に関してみなさんにお尋ねします。 以下の質問にあてはまるところに○をつけたり、()の中に記入してください			
問1	認知症について知っていますか？ 1. 知っている 2. 聞いたことはある 3. 知らない		
問2	若年性認知症について知っていますか？ 1. 知っている 2. 聞いたことはある 3. 知らない		
問3	ご家族、ご親戚など、あなたの身近にいらっしゃる認知症の方についてお尋ねします 1. 以前は身近にいたが、現在はいない 2. 現在身近にいる 3. 身近にいない		
	↓ ↓		
問4	問3で「1.以前は身近にいたが、現在はいない」「2.現在身近にいる」と答えた方がお答えください その身近な方とは、以下のどれにあてはまりますか？ 1. 同居家族 2. 親戚 3. その他()		
	「同居家族」は血縁関係があっ て一緒に住んでいる人、「親 戚」は血縁関係があっ て一緒に住んでいない人と考えて下さ い！		
問5	あなたの認知症に対するイメージを書いてください 		
問6	認知症の基本的なことについて、中・高校生ぐらいの年齢の人たちも知っている が必要だと思いますか？ 1. とてもそう思う 2. そう思う 3. そう思わない 4. 全く思わない		
問7	以下の質問について、「はい」「いいえ」のどちらかに○をつけてください		
	① 認知症と物忘れは同じである	はい	いいえ
	② 認知症になった本人は何もわからないから楽である	はい	いいえ
	③ 認知症の方には、子どもと接するように接したほうがよい	はい	いいえ
	④ 認知症になると、いろいろな気持ちも感じなくなる	はい	いいえ
	⑤ 自分の家族が認知症になったら周りに知られたくない	はい	いいえ

添付資料-③ 授業後アンケート<1>～<3>群共通

		授業後			
		にんちしょう 認知症に関する授業を受けていただいたみなさん たす にお尋ねします。 以下の質問にあてはまるところに○をつけたり、（ ）の中に記入してください			
問1 ↓ 問2 ↓ 問3 ↓ 問4 ↓ 問5 ↓ 問6	問1 にんちしょう 認知症の授業はためになりましたか？				
	1. ためになった 2. まあまあためになった 3. あまりためにならなかった 4. ためにならなかった				
	問2 問1で「1」「2」に○を付けた人への質問です 「1. ためになった」「2. まあまあためになった」と感じた理由を簡単に書いて下さい				
	問3 問1で「3」「4」に○を付けた人への質問です 「3. あまりためにならなかった」「4. ためにならなかった」と感じた理由を簡単に書いて下さい				
		問4 にんちしょう 認知症の基本的なことについて、 ねんれい 中学生ぐらいの年齢の人たちも知っている必要 ひつよう があると思いますか？ 1. とてもそう思う 2. そう思う 3. そう思わない 4. 全く思わない			
		問5 にんちしょう 認知症に関して、 みな 皆さんが知っていたほうが良いと思うことや、もっと知りたいと思うことなどについて書いて下さい			
		問6 以下の質問について、「はい」「いいえ」のどちらかに○をつけてください			
		にんちしょう ① 認知症と物忘れ ものわす は同じである	はい	いいえ	
		にんちしょう ② 認知症になった本人は何もわからないから楽である	はい	いいえ	
		にんちしょう ③ 認知症の方には、子どもと接するように接したほうがよい	はい	いいえ	
		にんちしょう ④ 認知症になると、いろいろな気持ちも感じなくなる	はい	いいえ	
		にんちしょう ⑤ 自分の家族が認知症になったら周りに知られたくない	はい	いいえ	
					